

取材を終えて

東日本大震災では津波の猛威を痛感せざるを得なかった。テレビの画面から流れる映像を見た瞬間、その破壊力に日本中が無力感を抱いたに違いない。しかし、私たちは、この現実正面から向き合い、予想される東海地震に備えなければならない。被害を100%防ぐことはできないが、犠牲者を一人でも少なくするために、考え、備えることはできる。それが減災につながる。

この地域が想定外の大地震に見舞われたとき、行政が、どれだけ機能するかは分からない。もしかしたら機能しないかもしれない。そのような事態に陥ったとき、自分や家族の命を守ることができるのは誰なのかを考えてほしい。頼れるものは何もない。自分で何とかするしかない。それくらいの強い気持ちが今の私たちには必要だ。災害は忘れたころにやってくるといわれている。東日本大震災の教訓を忘れず防災意識を高く持っていこう。

特集 教訓 終

表1 地震発生時の避難場所

広域避難場所	
八千代公園	御前崎小グラウンド
浜岡福祉会館駐車場	白羽小グラウンド
高松グラウンド	浜岡東小グラウンド
佐倉公民館駐車場	第一小グラウンド
比木グラウンド	浜岡北小グラウンド
朝比奈中央広場	浜岡中グラウンド
新野柏木広場	御前崎中グラウンド
御前崎公園広場	池新田高グラウンド
避難所	
池新田公民館	浜岡北小体育館
高松公民館	浜岡中体育館
佐倉公民館	御前崎中体育館
比木公民館・体育館	池新田高体育館
朝比奈公民館	池新田幼稚園
新野公民館	高松幼稚園
御前崎公民館	佐倉こども園
御前崎小体育館	北こども園
白羽小体育館	御前崎幼稚園
浜岡東小体育館	白羽幼稚園
第一小体育館	
福祉避難所	灯光園
東海清風園	福祉センターなごみ

■避難場所を把握しておく

大規模な地震が発生した場合、基本的には、各町内会の公民館や防災センターなどに一時的に避難する。状況に応じて表1の避難場所に移動する。一次避難場所へは各町内会の取り決めで集まる。

【用語解説】

広域避難場所：大人数収容できる避難場所。災害発生により、大規模な避難を要する場合に使用する。使用は、市からの避難勧告、避難指示、各自主防災組織の判断による。

避難所：一般的には、被災後に自宅を失った人、自宅に戻れない人が一時的に共同生活を送る場所となる。

福祉避難所：寝たきり高齢者や障害者、外国人、妊産婦など共同生活が困難な人が避難生活をする場所。

地震・津波からあなたと家族を守る 命のパスポート

3秒

地震だ！

- ◆落ち着け！
- ◆身を守れ！
- ◆火を消せ！
- ◆玄関を開ける

1分～2分

津波、山・崖崩れの危険地域はすぐ避難

- ◆火元を確認！
- ◆家族は無事か！
- ◆靴を履く！
- ◆非常持ち出し品

3分

◆みんな無事か！

- ◆近くに火は？
 - ・大声で知らせる！
 - ・消火器を使え！
 - ・バケツリレーだ！
- ◆余震に注意！

5分

◆ラジオをつけて情報収集！

- ◆電話はなるべく使わない
 - ・緊急連絡を優先に！
- ◆車で逃げるな！
- ◆ブロック、ガラス、がれき注意

5分～10分

- ◆子どもを学校などへ迎えに！避難する時は、
- ◆ガス栓を閉める！
- ◆ブレーカーを落とせ！
- ◆行き先メモを玄関に！
- ◆ブロック塀などの倒壊、看板やガラスが落ちるので注意

10分～数時間

- ◆みんなで消火活動！
- ◆みんなで救出活動！
 - ・困難な時は消防署へ
- ◆簡単な手当は自分で！

～3日間

- ◆生活必需品は備蓄でまかなえ！
- ◆同報無線、広報に注意！
- ◆壊れた家には入るな！
- ◆無理はやめよう
- ◆がまんと助け合いが大事！

避難生活になったら

3ヶ条

- ◆自主防を中心に！
- ◆ルールを守れ！
- ◆助け合おう！
 - ・災害時要援護者に心づかい